

# 地域づくりの延長線上に都市と農村の交流

和歌山県推薦都市農村交流アドバイザー（分野：観光交流）

木村 則夫

（農業法人株式会社秋津野 代表取締役社長）

## 1. 地域概要

和歌山県の南部に位置する田辺市上秋津地域は、中山間地に属する旧村単位の地域で、古くから柑橘の栽培が盛んな地域です。昭和 30 年代から地域づくりの組織を起ち上げ、住民主体の内発的な地域づくりを持続しています。

地域課題解決のため活動に取り組み、平成 8 年には農林水産省主催の豊かなむらづくり表彰事業で天皇杯を受賞し、今日においては、地域づくりの持続性を担保するために法人化したコミュニティビジネス組織が地域づくりに取り組んでいます。

## 2. 農業危機が交流へと舵取り

バブル経済が崩壊し 5 年もたつと、上秋津地域の主力の柑橘の価格が下がり始め、市場を通して農家に還元されるお金が一気に減りました。農家は苦しまぎれに、道沿いの畑の隅に手づくりの無人の直売所をどんどんと建て、柑橘を並べて販売がスタートしましたが、精算が合わないなど、無人の直売所の限界も感じていました。

しかし、宅配のシステムが整備され、親戚や知人・友人に向けての宅配も開始されると、お届け先からは大変美味しかったなどのお話をうかがうことができるようになりました。このことから、今まで市場を通して農家に届けられていた消費者の意見とは乖離していることに気づかされました。

そのため、これからは農家と消費者が交流しながら農産物を販売する時代であるとの認識が農家の間で出始めました。

## 3. 農村にある直売所の役目

平成 11 年 4 月、地域住民 31 名が 10 万円ずつ持ち寄り、常設の直売所を開設しました。しかし、直売所事業を運営するには立地環境がよくありませんでした。そこで、平成 15 年に再出資を募り新築移転し、駐車場とトイレがある環境を整えました。移転しても 20 坪の売り場面積であり、買い物をして 10 分もかかりません。ところが、他府県ナンバーの車は、直売所での買い物の後、隣のコーヒー専門店で長時間過ごしている姿が見られました。

このことから、農村にある農産物直売所の役目は、農産物の販売と同時に、ゆったりとした時間と空間を与えられる場所であることだと気づかされました。その当時、直売所のメニューに無かったミカンの収穫体験をしたいと、お客様の方から問い合わせが入り始め、直売所で収穫体験を行うようになりました。地域をさらに活性化させるには、直売所で農産物を買ってもらう時代から、農村を観る、体験する、味わう、泊まる時代になってきたのではと考え始めました。

#### 4. こころの地域資源活用で都市農村交流

誰しも自分が巣立った、思い出の詰まった小学校が使われなくなり、取り壊されることになる  
と非常に辛いものがあります。地域住民や和歌山大学中心に廃校を利用した都市農村交流施設の  
開設に向け、5年の歳月をかけて計画書をつくり、住民出資で資金を集め、平成20年11月に都  
市農村交流施設『秋津野ガルテン』がオープンしました。

#### 5. 二度味わってもらう

都市住民が気軽に来ってもらうにはレストランが必要と考え、プロの主婦がつくる田舎の家庭料  
理をコンセプトにした農家レストランを秋津野ガルテン内にオープン。当時、そんな料理を食べ  
にわざわざ都会から人は来ないと言われていました。しかし、農家の食卓を見てもレトルトや冷  
凍食品が並ぶ時代。家庭の暖かな料理は隅に追いやられていました。家庭料理が認められ、平成  
20年のオープンから15年を経てもお客様は途切れていません。

秋津野ガルテンに一步入ってもらうと、昭和28年に建てられた木造校舎と緑の空間。まずは目  
でこの景観を味わってもらうから、野菜料理中心のランチを味わってもらう。25名以上の団体  
様は、木造校舎の教室で特設バイキング料理を提供し、思い出を持って帰っていただいています。

#### 6. 農村に泊まってもらう

上秋津地域は一年中ミカン・柑橘が収穫できる産地でもあり、農家のお母さん方も働き手です。  
女性に負担がかかる農家民泊に頼るだけの宿泊計画では女性の応援は得られません。

また、農村に宿泊施設が必要である理由として、農家の高齢化と後継者不足があります。計画  
段階でも、平成25年位からは収穫時を中心に人手不足に陥ることも予想されていました。そうい  
った方たちへの食事と宿泊施設の提供が出来れば、援農ワーキングホリデーも可能なのではと考  
えていました。

予想した通り、今日では関西の大学生を中心に援農ワーキングホリデーに利用していただい  
ています。一般のお客さまやインバウンドはもちろんのこと、地域づくり学習や試合や合宿などの  
スポーツツーリズムでもよく利用されています。

#### 7. 体験してもらう

ガルテンの旧校舎側にある元職員室を改造した、カフェとスイーツづくり体験工房『バレンシ  
ア畑』があります。カフェや地元の柑橘を使ったいろんな体験メニューが用意されています。も  
ちろん、インバウンドの方も、地元のお寺での座禅体験やミカン収穫体験、巻きずし体験、スイ  
ーツづくり体験などを行うことができます。

#### 8. 開かれた農村のイメージに

直売所きてらや秋津野ガルテンに毎日のように他所から人がやってくることで、そこに暮らす  
住民たちの心にも変化があると思います。近隣の似たような農村と比べても、明らかに開かれた  
農村のイメージを持つのに違いありません。

田辺市には大学もなく高等の専門学校も少なく、働く場所も限られ、高校を卒業すると約80%  
以上が県外に出て行ってしまいます。残念ながらそれがずっと続くでしょう。しかし、都会で就

職したからといって完全に故郷を忘れてしまうことは無いと思います。里帰りして頑張る地域の姿があれば、故郷への思いも強まるのではと考えています。

ここ10年、上秋津の外で暮らしていた若い世代が、次々と地元に戻り、終の棲家を建てて暮らす世帯が増えてきています。さらに、若い農業後継者も少ないですが育ちだしています。こういった現象も都市農村交流の成果の一つではと私たちは考えています。

## 9. アドバイザーとしてのアドバイス

上秋津地域には様々な地域づくりの取組があり、法人化も成し遂げています。地域づくりの持続性をいかに担保するかを地元の直売所や都市農村交流施設の立ち上げから運営に至るまでを例にして伝えたいと考えています。

